

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成21年8月(2009年) No.5 24

八日市撮影会作品公開コンテスト 最優秀賞は前田茂夫氏の作品

去る5月30～31日、滋賀県東近江市五箇荘並びに八日市大風揚げ撮影会が行われましたが、その作品コンテストが7月例会日の午後1時半より例会場で行われましたが、作品数は10本、出席者17名にて投票した結果、次の通りとなりました(全作品がハイビジョンでした)。

最優秀賞	湖東の空に大風が舞う (HDV)	前田茂夫さん	12分51秒
優秀賞	大風の町八日市 (HDV)	江村一郎さん	6分45秒
秀作賞	五箇荘と八日市大風上げ (HDV)	合原一夫さん	12分23秒
佳作	大風にかける夢 (HDV)	進藤信男さん	14分45秒
	八日市大風まつり (HDV)	紙本 勝さん	13分00秒
	八日市大風絵巻 (HDV)	上田吉己さん	11分10秒
	上れ大風 (HDV)	宮井 健さん	9分45秒
	風揚げ (HDV)	有村 博さん	12分27秒
	風の神さん風おくれ (HDV)	玉井 勻さん	8分00秒
	八日市大風祭りと五箇荘 (HDV)	錦 務さん	11分38秒

予想以上に百畳敷大風が高く揚がり、20分を越す長時間に亘って大空に揚がっていましたので、皆さんよく撮っておられました。広い会場のため撮影場所によって運不運があったようです。前田さんは風の綱を固定したショベルカーの付近にカメラを据えておられたので、曳き手たちの「やった!あがった!」という喚声をあげる姿と喜びの声をよく撮られています。そして地上へ落ちてからも落下場所へ駆け付けて撮影しておられます。ダントツの35票を獲得されたのもうなづけます。五箇荘のカットを入られたのは江村さん、合原さんの2人だけでした。大風だけに絞った方が作品として纏め易かったと思いますが、皆さんせっかく撮っておられるので、いずれ五箇荘の作品も作って頂きたいと思います。

8月例会のお知らせ

8例会は第4土曜日22日18時より、大阪市立難波学習センター(JRなんばOCATビル4階)にて開催します。暑い盛りですが例会場は冷気満点です。月1回の楽しいひとときを過ごしましょう。皆様のお越しをお待ちしています。

第49回 OMC映像フェスティバル プログラム決まる

去る7月31日の幹事会で、今年のOMC映像フェスティバルの作品選定とプログラム編成を行い、次の様に決定しましたのでお知らせいたします。

プログラム:15番以外は全てハイビジョン

1. がんばれ貴志川線 10分 上田正巳
2. 雲南遊山 6分 山本正夢
3. 天空の城・竹田城 12分 紙本 勝
4. あの時の思い出を乗せて
10分 藤原純三
5. 石垣島で 9分 西村光雄
6. 西宮十日えびす 18分 吉岡貞夫
7. 遊園地の詩 3分 宮井 健
8. 湖東の空に大凧が舞う13分前田茂夫
休憩
9. 国東の素晴らしき鬼たち
13分 河合源七郎
10. 顔 6分 安居利次
11. ベトナム・ホンアンの人々9分 関 剛
12. 朱鷺のふるさと 15分 進藤信男
13. 風雪餘部Part2 6分 江村一郎
14. 御嶽山周辺の山 10分 有村 博
15. 紀州へら竿師(SD)16分 合原一夫

以上の様に決定しました。今年は10分を越す作品が多く時間の都合で15作品に絞らざるを得ませんでした。選に漏れた良い作品もありましたが残念でした。

■出品者の方は8月例会に作品と出品料をお持ちください。

■出品料改定について

フェスティバル会計の赤字が増えておりますので、今年から次のように改定します。

- ・10分までの作品は一律8,000円
- ・10分を超えるものは1分増す毎に1,000円アップにします。例えば10分30秒なら9,000円、12分なら10,000円となります。よろしく願いいたします。

7月例会レポート

今年の梅雨は雨が少なく先月のレポートで書きましたが、その後、山口、北九州など各地で記録的な大雨となりました。梅

雨明けも8月に入ってからという異常気象です。今月は昼間の撮影会作品公開コンテストに引き続きの例会となりました。司会是有村氏、書記、関氏、受付、宮崎さんと紙本氏、上映係はいつもの河合、江村、増池3氏の担当で進行了ました。

出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、上総、紙本、河合、黒田、合原、関、錦、華岡、藤原、前田、増池、宮井、宮崎、森下、森田、安居、吉岡の22氏と作品13本でした。

上映作品：今月の記録と講評 関幹事

1. 中国・水郷風情(SD) 7分20秒
合原一夫さん

朱家角、周莊、同里、角直とは上海郊外のどのあたりになるのかな？。早朝のせいかな人影はすくなく、まるで時間が停まっているかのようなのかな風景です。運河の水で洗濯や洗い物をする女性たち。お世辞にもきれいな水とは言えませんが、それが古くから伝わってきた生活習慣なのでしょう。観光客の来る時間帯でも大挙して押し寄せるほどのことはなく、大都会の影に隠れたオアシスの感があります。喧騒渦巻く市街地からすこし外れるとまだこのような静かな水郷が残っていたことに何故かほっとしました。作者にしては珍しくノンナレ。司会者の質問に、中国シリーズのついでのようなもので軽く流した、とか。

とは言うものの、水郷の情景が素晴らしただけでなく人々の生活感も的確に表現されており、さすがと思いました。ラストはやや観光くさくなりましたが。

2. 鶴見緑地(ワイド) 6分50秒
増池 茂さん

咲くや此の花館で熱帯植物の花々を連続アップで撮られていて美しく豪華です。が、いつもどおり三脚にどっしり構え、めったにカメラを振ることはなく、撮影会のお仲間らしい人たちは居たけれども、ほかにほとんど人影はなし。つまりパンはしない。余計な人物の写りこみは極力避ける。それが作者のポリシーのように感じますが、対象が静物。温室内だから風の揺らぎもない。動くモノに欠乏しているのでビデオ作品としては淋しいですね。それにこの題名にす

るのだったら、ほかのものもいっぱい撮っておかないと…。

3. 湖東の空に大風が舞う (HDV)

12分51秒 前田茂夫さん

5月30、31日に行なわれたOMC撮影会作品コンテストの互選でダントツの一位に輝きました。詳しくは撮影会作品の講評欄を参照。

4. 国東の素晴らしき鬼たち(改) (HDV)

13分06秒 河合源七郎さん

今も往来するのはなにかと不便な国東半島。独自の仏教文化を育み伝えられてきたのはこの自然の閉ざされた厳しい地形にあったのかもしれませんが。近在の民衆に限らず、郷土芸能を主導するのはもっぱら僧侶たちというのもこの地域ならではの特色なのでしょうね。先月の例会でお披露目されたのを再編集。全体に引き締まって判りやすく生まれ変わりました。それにしても撮影のすべてがアガなしとは驚きです。

5. 太郎が帰ってきた (HDV)

8分31秒 前田茂夫さん

みごと肩すかしでしたね。てっきり列車か機関車のニックネームとばかり思っていましたから。道頓堀の中座跡を改修した「くいだおれ中座ビル」のリニューアルオープンセレモニーの実況風景。太郎はくいだおれ人形のことでした。なんでもネットで調べて当日の早朝から待機していたとかで、その甲斐あってか挨拶する橋下知事や平松市長を絶好のポジションで撮っていました。やる気満々のすごい実行力に感心することしきりです。セレモニーが終わったあとも真骨頂を発揮。くいだおれの柿木道子会長（おかみさんと呼ぶのが適切かな）が笑顔を絶やさず、大勢の人たちの記念写真に応じる姿を超アップで狙っていました。すごいです。作者もこんな作品を作ることができるのですね。

6. 赤い柱のある公園 (HDV)

6分15秒 吉岡貞夫さん

バラが咲く広い公園にひと際目立つ赤い柱が3本。自由、平和、人類愛と無限の宇宙を表わしているそうですが、その姿はあまりにも抽象的で理解するのは難しいです。作者はそれを執拗に追っていましたが、

主役はどう見てもバラ。「バラ公園」では平凡すぎるので赤い柱の題名にこだわっているのでしょうか。テロップが南欧風とあるように、アーチ形の白い壁とオレンジ色の瓦、門のように刈り込んだ木。どこかアルハンブラ宮殿のヘネラリフェに似てお洒落な公園。題名もむしろそちらを強調する風にすれば…？。

7. 風雪余部 Part2 (HDV)

6分10秒 江村一郎さん

通学どきのように、女子学生が行き交う雪の香住駅から始まります。雪で煙る鉄橋を列車は通っていましたから、あまり強く吹雪いているわけでもないのでしょう。走り去る消防車。雪と戯れる子供たち。なんでもない光景の中の赤い色が墨絵のような風景では鮮やかな印象として映りました。全般に Part1の方が迫力があってのように思えます。

8. チャグチャグ馬コ (HDV)

11分36秒 紙本 勝さん

盛岡は南部地方に古くから伝わる行事。昔は農作業に欠かせない馬は農家の宝物だったのででしょう。田植えが済んで一息つく頃、馬の神様の蒼前さんに豊作を祈願したことが始まりだそうで、いつの頃からか馬を飾り付ける習わしとなり現在の豪華な装飾に至ったと言います。馬ともども蒼前さんに参拝したあとは盛岡駅まで、なんと片道15キロの道をひたすら歩くのみ。その数97頭はじつに壮観です。田園地帯から市街地へと隊列の背景も変化に富んでいますが、馬が歩く速度って結構早いですから撮る方はたいへん。後になり先になりと、結果は20キロは走った。ことになるのかも知れませんが、お疲れさまでした。

9. 昌子さんとアヒル (HDV)

7分35秒 宮井 健さん

普段は歌声喫茶を経営する主人公。合唱や演奏で客をもてなす傍ら、もうひとつの仕事は庭で飼っている3羽のアヒルの世話です。縁日などで買った雛が育ったのですが、ここまで大きくなるともう家族も同然。ただ彼らは水鳥ですから池で遊ばすことも必要ですが場所がない。そこでヨチヨチと連れだしたところは近所の水槽。と

いっても2メートル四方のセメントを攪拌する盤のようなものでした。それでもアヒルたちは大喜び、帰る時間がきても水槽から出ようとしません。なだめすかしてやっと家に連れ帰る。そんなことが昌子さんの日課になっているようです。作者のカメラの向け方がいいですね。そして愛情いっぱい作り方。こころ温まるお話でした。

10. 朱鷺のふるさと (HDV)

14分55秒 進藤信男さん

佐渡からトキの姿が消えて18年。そして丹波のコウノトリ飼育から遅れること2年、やっとトキを育て自然に帰す運動が開始されました。中国からつがいのトキを迎え入れると同時に野山を自然に戻す作業から始め、それはそれは長い年月をかけてどうにか放鳥するまでにこぎつけたのです。野鳥の生態を撮りつづける作者。野生でも鴛鴦や鍋鶴は割合に群れていますから、その時期その場所に行けばそれなりに撮れますが、トキの人工飼育は固体を増やし自然へ回帰させる作業ですからそれを記録するのはたいへん、おそらく何度も通われたのでしょう。秋篠宮ご夫妻を迎えた放鳥式典。飛び立った瞬間、長いあいだ飼育に携わった人びとの心情は如何ばかりか、捕食は、天敵は…。そして最大の関心事は作者同様、佐渡が再び「朱鷺のふるさと」に…。なのでは。

11. ロボカップ2009 (HDV)

8分15秒 安居利次さん

ロボット同志のサッカー戦が大阪ドームであると聞いて取材に行かれました。去年はリモコン操作だったのが、今年はロボット自身の目で判断して行動するのがルールだそうでフランス製の参加もありました。ホンダのCMで見るアシモなど、2足歩行の研究はかなり進んでいるようですが、ボールを追いながら蹴るというメカニズムを記憶させるのは難しいのか、どれも転倒ばかりでした。将来は人間とサッカー試合をして必ず勝つのが目標らしいのですが、去年からあんまり進歩していないそうです。しかし若者が大きな夢をもって切磋琢磨するのはいいことですね。新聞社の取材で、夕刊の写真にビデオカメラを構える作

者が写っていて、それがこの日の唯一の収穫だったとか。よかったですね。

12. ミニチュアシティ神戸 (HDV)

6分45秒 井上勝彦さん

会員のジオラマ作品がヒントと言いますからすごいアイデアですね。グーグルアースに掲載の主要都市が実像の3Dに進化したのを取り入れ、さも神戸市街のミニチュアを海上の上空から移動撮影したような処理がされてあります。グーグルアースを知らない人は確かに錯覚しますね。最近鉄道模型がブームになり、大規模のジオラマが各地にお目見えしてその映像を拝見する機会も増えてきましたが、走る電車などの速度を実物に再現したと仮定すればものすごいスピードになり、150Rのカーブでは確実に脱線転覆?。まあ現実にはありえませんが…。またジオラマを撮るとき望遠気味にするほどピントの合う範囲が狭まり、周辺がボケた状態になります。序盤のグーグル以外の街頭風景はビルの屋上など高所からの実像で、使ったカメラはパナソニックのルミックス一眼ムービーでインターバル撮影だとか。人や自動車のチョコマカ動く効果。周囲にソフトフォーカスを施すボケ効果。それらが相俟って神戸の街のミニチュアに不思議の世界をみごとに演出しています。ただラスト近くから何だかチョコマカが早くなりすぎました。

13. 鶴見緑地アラカルト (HDV)

6分40秒 上総修一郎さん

撮影に行った日がたまたま増池さんと同じだったらいいですね。内容も咲くや此の花館が主題というのも似ています。が、違いは奇想天外というナミビア原産のサボテン種にかなり時間を割いているところでしょう。花博でこの場所に移植されて約20年。物の本によると年間雨量わずか40ミリの乾燥地帯で2000年は生きるそうですから、たいへんしたたかな植物です。ここに移ってからの年月なんて物の数ではないのかもしれませんが。原名はウェルウィッチ・ミラピリス。それにしても和名の「奇想天外」という奇想天外な名前は誰が付けたのでしょうか。